

# We Love Tamagawa

## いのちをつなぐ138

～多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム～

(第1次案内)

学生・市民が一緒になって多摩川をめぐるエコミュージアムに蓄積された知恵を共有し、流域住民に広く伝え、上・中・下流の人々の環境学習活動をつなぎます。



このシンポジウムは東京学芸大学の学生、教職員と多摩川流域市民の皆様と一緒に実行委員となって、熱く語り合いながら、手作りで準備しています。さらに多くの学生や市民の皆様が話し合いに参加してくださることを歓迎し、楽しみにお待ちしております。

<日時> 2007年11月17日(土)10時～17時 (終了後、交流会)

<場所> 東京学芸大学 講義棟 (S410 ほか4階全フロア)  
環境教育実践施設多目的室、彩色園など

<主催> 東京学芸大学地域と連携した環境学習推進委員会・植物と人々の博物館プロジェクト

<開催内容>

◆ 11月16日 19:30～ **プレシンポジウム** ～野外環境学習活動について、じっくり語り合おう～  
話題提供：高野孝子(エコプラス代表理事)

◆ 11月17日 10:00～17:00

**開会の挨拶** 実行委員長

古橋源六郎(財団法人森とむらの会会長)

東京学芸大学地域と連携した環境学習推進委員長

村松泰子(東京学芸大学副学長)

山梨県小菅村長

廣瀬文夫(全国源流の郷振興協議会会長)

### 全体会①

1. シンポジウムの趣旨説明

2. 多摩川をめぐるエコミュージアム活動の現場からの話題提供

### 展示

個人や団体の活動や研究をポスターなどで展示発表し、人々の出会いと活動経験を交流する(展示申し込みは10月15日まで)

### 分科会

多摩川の自然をめぐる展開されているいろいろな文化活動の経験を交流し、じっくり話し合います。

#### 分科会1:多摩川流域の生き物と川遊び

川や川原での遊び、河川敷の利用の仕方、多摩川流域で生きる生物やこれをめぐる生物文化多様性の保全、外来生物の制御などについて話し合います。

#### 分科会2:山村の暮らしとむらづくり

農林水産業をめぐる山村の生活について経済の実情をふまえて話し合います。

#### 分科会3:多摩川流域のまちづくり

環境保全、災害防止、景観を考えたまちづくりについて体験に基づいて考えます。

#### 分科会4:エコミュージアム・ネットワークづくり

多摩川流域住民や市民活動団体の連携、エコミュージアム活動の協働組織づくりについて話し合います。

### 全体会②

各分科会のまとめ報告を聞いて総合的な話し合いをします。

### 交流会

・・・ 講義棟でのプログラム終了後、開催

**[テント村]**学内外の学生向けに、16・17・18日はテント村を設営予定(広域避難所体験を兼ねて)

**協賛団体:**山梨県小菅村、小菅村教育委員会、(財)水と緑と大地の公社、多摩川源流研究所、小菅村観光協会、小菅村商工会、100%自然塾、エコセラピー研究会、小金もち工房、(特)カッセKOGANEI市民起業サポートセンター、(特)ミュゼダグリ、小金井市環境市民会議、とうきゅう環境浄化財団、(財)森とむらの会、(財)森林文化協会、(社)国土緑化推進機構、(特)全国水環境交流会、(特)多摩川エコミュージアム、(特)環境文明21、(特)ECOPLUS、(特)自然文化誌研究会、北都留森林組合、(特)環境文化のための対話研究所、(2009年3月末まで協賛名義使用の承認)ほか

**後援:**日本エコミュージアム研究会、東京都奥多摩町ほか(交渉中)

**問い合わせ:東京学芸大学現代GP多摩川エコモーション事務局**

FAX:042-329-7669 TEL:042-329-7862(井村)

Eメール:tama-eco@u-gakugei.ac.jp

内容の詳細はこちら: <http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/millets/framepage1.htm>

